

●景気基準日付（全国・愛知県）

表は、全国と愛知県の景気基準日付の推移を示したものです。景気基準日付は、一致系列によるHDI（Historical Diffusion Index=個別系列の不規則変動を除外してDIと同じ方法で計算したもの）の動きを中心としてほかの主要経済指標の動きを参考に設定しています。

全国と愛知県をみると、景気拡張期（景気の谷から景気の高までの期間）、景気後退期（景気の高から景気の谷までの期間）の期間の長さは第9循環の景気後退期以外は若干ずれていますが、ほぼ同じような動きをしていることがわかります。

循環	全国						愛知県						
	谷	山	谷	期間		俗称		谷	山	谷	期間		
				拡張期	後退期	拡大期	後退期				拡張期	後退期	
第1循環	—	S26.6	S26.10		4カ月	特需景気							
第2循環	S26.10	S29.1	S29.11	27カ月	10カ月	投資景気							
第3循環	S29.11	S32.6	S33.6	31カ月	12カ月	神武景気	なべ底不況						
第4循環	S33.6	S36.12	S37.10	42カ月	10か月	岩戸景気	転換型不況						
第5循環	S37.10	S39.10	S40.10	24カ月	12か月	オリンピック景気	証券不況		S39.11	S40.12			13か月
第6循環	S40.10	S45.7	S46.12	57カ月	17カ月	いざなぎ景気	ニクソン不況	S40.12	S45.6	S46.12	54カ月	18カ月	
第7循環	S46.12	S48.11	S50.3	23カ月	16カ月	列島改造ブーム	第1次石油危機	S46.12	S48.12	S50.5	24カ月	17カ月	
第8循環	S50.3	S52.1	S52.10	22カ月	9カ月		円高不況	S50.5	S52.1	S52.9	20カ月	8カ月	
第9循環	S52.10	S55.2	S58.2	28カ月	36カ月		第2次石油危機	S52.9	S55.2	S58.2	29カ月	36カ月	
第10循環	S58.2	S60.6	S61.11	28か月	17か月	ハイテク景気	円高不況	S58.2	S60.5	S62.4	27カ月	23カ月	
第11循環	S61.11	H3.2	H5.10	51カ月	32カ月	バブル景気	複合不況	S62.4	H3.6	H5.12	50カ月	30カ月	
第12循環	H5.10	H9.5	H11.1	43カ月	20カ月	カンフル景気	日本列島総不況	H5.12	H9.5	H11.4	41カ月	23カ月	
第13循環	H11.1	H12.11	H14.1	22か月	14か月	IT景気	デフレ不況	H11.4	H12.12	H13.12	20か月	12か月	
第14循環	H14.1	H20.2	H21.3	73カ月	13カ月	いざなぎ景気	世界同時不況 (リーマン不況)	H13.12	H19.10	H21.3	70カ月	17か月	
第15循環	H21.3	H24.4 <sup>(1)</sup>		37か月				H21.3 <sup>(1)</sup>					

※(1)は暫定

資料 県統計課「あいちの景気動向」 内閣府「景気動向指数」より作成  
 なお、俗称はマスコミ等で用いられているもので、正式ではない。

## ●景気動向指数 CI 一致指数の推移（昭和 60 年～平成 24 年）

景気動向指数とは、生産、雇用など様々な経済活動において重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって景気の現状や将来予測及び景気転換点（景気の山・谷）の判定に資する総合的な指標です。CI とは、採用系列の変化率を合成、累積することにより経済活動を量的に総合化し、景気変動の相対的な大きさやテンポといった量感を把握しようとするものです。経済活動間における景気のタイムラグを利用して先行、一致、遅行の 3 指数で構成され、図は景気の現況を示す一致指数（平成 17 年=100）を昭和 60 年から平成 24 年までの推移をみたものです。

昭和 60 年以降の景気循環の中で、リーマンショックのあった第 14 循環を注目すると景気の山（平成 19 年 10 月）からの景気の谷（平成 21 年 3 月（暫定））までの景気後退期が最も CI 一致指数の落ち込みが激しくなっています。このことから、愛知県経済においてリーマンショックの影響が大きかったことがうかがえます。

